

## 補助事業公募審査会二次審査結果及び審査委員附帯意見

### 1 二次審査（公開プレゼンテーション審査）の状況

一次審査（書類審査）の採点結果が27.33点未満の20件、10,999千円のうち、申請を取り下げた1件、1,000千円を除く19件、9,999千円について、補助金交付の採否を決定するために申請団体による公開プレゼンテーションを実施した。

### 2 審査委員の審査結果（一覧表は別紙のとおり）

新居浜市補助事業公募審査会審査委員8名による審査を実施した。

審査結果は次のとおり。

#### 一次審査採択事業

27.33点以上のもの	55件（42,181千円）
	※補助金予算の財源枠（全体）48,220千円

#### 二次審査対象内訳

50.84点以上のもの	13件（5,279千円）	・ ① 補助金財源枠内
50.83点のもの	1件（1,000千円）	・ ② ボーダーライン上
50.83点未満のもの	5件（3,720千円）	・ ③
合計	19件（9,999千円）	

- ① 二次審査の補助金財源枠6,039千円内に入るのは50.84点以上の13件、5,279千円である。
- ② 50.83点の1件、1,000千円については、ボーダーライン上となるが、昨年度はボーダーラインについては採択したことから、今年度も採択とする。（審査会において了承済み、この場合は補助金財源枠を240千円超過する）
- ③ 50.83点未満の5件については、補助金財源枠外となるが、一次審査採択決定分、①及び②の事業について予算査定による補助金額の減額等があった場合は、補助金財源枠に応じた採択を行う。（審査会において了承済み）

### 3 二次審査（公開プレゼンテーション審査）に係る審査会附帯意見

- 一次審査と比較して評価は大きく変わらない。限度額の100万円を超えている事業も見受けられるが、繰越剰余金等がある団体については多少減額して、少しでも新規事業に対する補助金を増やしても良いのではないかと。

- 一次審査より、二次審査で直接団体からのプレゼンを聞くと熱意が伝わり、より具体的にわかる。
- ボランティアで必要な費用分だけを申請している事業と、大きな組織から申請している事業との差が大きいので、ボランティア団体を区分するような形をとってはどうか。
- これだけの事業数の審査を、実質1日半で行うのは無理があり、細かい内容までの審査は不可能である。
- 具体的に写真とか、わかりやすい資料とかを添付してプレゼンをしていただくと、実態がよくわかり、審査の判断がしやすいため、次年度以降の申請に際しては、そういった資料の添付について指導していただきたい。
- 事業内容等が具体的でないとか未定であるという事業については、申請書を受け付ける時点で担当課が指摘して対応すべきである。
- 様々な補助金対象事業があるが、一般の市民の方はそれを知らない方が多いので、例えば、チラシなどで補助対象事業であることを明らかにするようにすればよいのではないかと。
- 補助金の額については、以前からある事業ということで限度額を超えて申請している事業については是正すべきでは、例えば毎年何%かずつでも減額するような制度を設けてみてもよいのではないかと。また、継続事業については、何年目かを記入するようにすればよいのではないかと。
- 補助申請される側は様々な分野で色々な世代の方がいらっしゃるの、審査する側も様々な立場で、幅広い世代の方にすれば平均化された審査になると思う。
- 何年も継続して申請している事業については、最長何年までとか期限を決めて、期限を超えたら1回休むというような制度を取り入れてもいいのではないかと。
- 全体の事業費に占める補助金の割合を50%のしている事業とそうでない事業が見受けられるので、補助割合について、今後は別の基準を考えるべきではないかと。

以上

写真

